

地域就職氷河期世代支援加速化交付金事業の実施について

事業の目的

当事業は、就職氷河期に就職期を迎えた方で、本人の意に反して非正規雇用で働いている方の正規雇用を支援するとともに、県内企業の人手不足を解消することなどを目的として実施するものである。

事業内容

- ・不本意非正規労働者等の正規雇用化、企業の人材不足の解消を目的として、正社員なろうプロジェクト（各種研修、キャリアカウンセリング、合同企業説明会、企業向けセミナーなど）を実施。→K P I ①～③
- ・若者自立支援センター埼玉において、職業理解を図ることなどを目的として有償型の就業体験を実施。→K P I ④

重要業績評価指標（K P I）

（1）K P I の設定

- K P I ① 正社員雇用就職者数
- K P I ② 事業参加者数
- K P I ③ 求人企業数
- K P I ④ 有償型就業体験参加者のうち正規雇用就職者数

（2）K P I の計画目標及び実績

	令和2年度 (一年目)	令和3年度 (二年目)	令和4年度 (三年目)	計画中の増加分の 累計
K P I ①	300	300	300	900
K P I ①実績	101	63	71	235
K P I ②	600	600	600	1,800
K P I ②実績	636	561	395	1,592
K P I ③	200	200	200	600
K P I ③実績	119	86	125	330
K P I ④	0	10	20	30
K P I ④実績	0	1	5	6

（3）K P I の計画目標の未達成の理由（令和4年度）

K P I ①

- ・新型コロナウイルス感染に関する心理的影響が求職者の間で根強く、正規雇用就職者数が目標を下回る結果となった。
- ・当事業の研修や企業説明会などに単発で参加され、採用までの一貫した支援に至らないケースが大半であったため、最終的な進路が確認できない者が相当数いたことも要因と考えられる。

K P I ②

- ・新型コロナウイルス感染に関する心理的影響が求職者の間で根強く、事業参加者数が目標を下回る結果となった。
- ・当事業における求人職種が求職者の希望職種と隔たりがあり、面接会等への参加が伸びなかった。

K P I ③

- ・企業への周知が不足していたことに加え、ハローワークの就職氷河期世代への求人に加えて当事業の求人を出すことのメリットを感じていただけなかったケースが多かったと考えられる。

K P I ④

- ・仕事内容や労働時間の長さ等に心理的負担を感じて正規雇用を敬遠する者が多く、体験のあとに約半数は就職に至ったが正規雇用はわずかであった。

(4) 効果検証（令和4年度）

令和5年5月23日（火）に開催された埼玉就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム会議にて、プラットフォーム構成員の方々による達成状況の検証及び審議をいただいた。